

軽くて彫れる石質ねんど

天然の石からつくった、伸びがよくきめの細かなねんどです。しかも乾燥後の強度はバツグン。絵具やポスターカラーなどで、自由に着色することもできます。造形や彫塑作品の材料としても、工作の材料としても幅広く活用できる素材です。

特長

- ピン・カン・木・針金・紙・ひもなど、いろいろな芯材が使えます。
- 乾いてから彫刻刀で自由に彫ることができます。
- 絵具を入れてよく練ると、質感を活かすカラーねんどが出来ます。
- 一度乾いた作品でも、その上からねんどが簡単につけたせます。
- 乾燥後の収縮が少なく、芯材を使ってもヒビ割れしません。



フォルモ-S (350g)

学納価 **¥200** (本体価 ¥182)

コード: 101104



フォルモ-M (500g)

学納価 **¥310** (本体価 ¥282)

コード: 101102



フォルモ-L (750g)

学納価 **¥410** / (本体価 ¥373)

コード: 101103

※石質ねんどは教科書では紙ねんどに該当します。

<石塑>

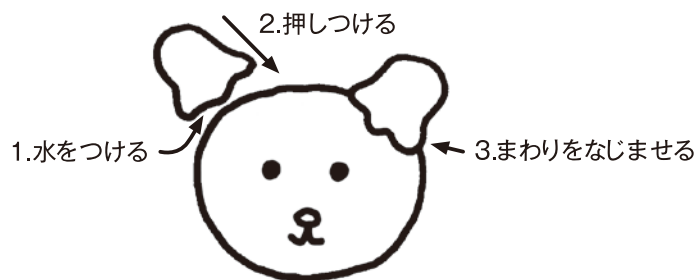
作例の作り方

<p>バスケットボール</p> 	<p>頭像</p> 	<p>ペンダント</p> 
<p>材料 フォルモ</p> <p>作業ポイント アルミ線で形をつくり、台にとりつけ固定して芯にする。芯にひとまわりねんどをつけ、一度乾かして、芯をしっかりとせ、仕上がりの盛りつけをする。</p>	<p>材料 フォルモ／角材／板木</p> <p>作業ポイント 板木にL金具や釘を使い、角材を立ててしっかりとした台をつくる。ねんどで頭をつくり乾かす。</p>	<p>材料 フォルモ／リボン／クリップ／ビーズ／絵具</p> <p>作業ポイント アクセサリー本体の形をつくり、ねんどが固まる前にクリップを差し込み乾かす。乾いた粘土に絵具で塗装したりビーズで装飾をして、リボンをつけて完成です。</p>

フォルモの使い方

■ 腕・足・耳 目をしっかりとつけるには

芯を入れずに腕・足・耳 目などをつけるには、その部分に少し水をつけ、つけるものを下地に強く押し当て、まわりを指かへらで、よくおさえつなぎ目がわからなくなるまで、ねんどをよくなじませます。



■ つくっている途中でフォルモの表面が乾いてきたら

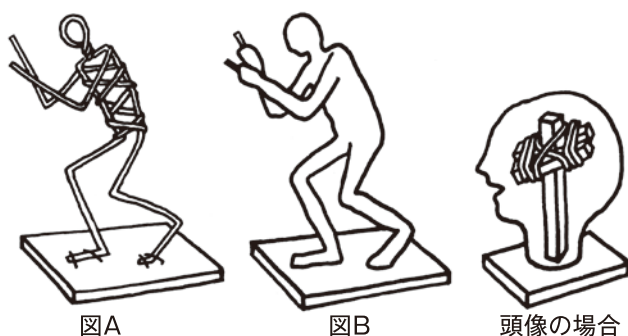
大きめの筆に水をつけて表面に湿気を与えます。また、霧吹きを用意しておくと手間がかかりません。完全に乾いた表面にねんどをつけたす場合も同様です。

■ 芯を使ってフォルモを盛りつける場合は

まずしっかりと台つきの芯をつくります。(図A)

芯ができ上がったらねんどをひとまわりつけ、一度完全に乾かして芯を硬く丈夫にします。(図B)

この方法をとらずに一気に仕上げると、ひび割れたり折れたり落ちる原因になります。



■ 生乾きの作品を移動する場合は

表面は乾いていても中が湿っているときがあります。細い部分を持ちたりせず、台座や大きな部分を持つようにします。

■ 作品を乾かすときには

新聞紙をまるめて台にして、形がたれそうなところに置くようにします。



■ 彫りにくいときは

粘土が湿気を含んでいた場合は、ドライヤーなどで乾燥させることで彫刻刀の通りがよくなります。

■ つや仕上げをしたいときは

透明水性ニスを塗ってください。

■ フォルモの保存方法は

乾かないようにビニール袋に入れて口をしめておきます。

■ 代理店



2023.1 改訂 107980

PADICO 株式会社パジコ

商品センター 〒412-0047 静岡県御殿場市神場673-3 ☎0120-296-845 <http://www.padico.co.jp>